

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんが4月から受講することになる普遍教育についてのガイダンスを、動画形式でお届けします。必ず全体を視聴し、普遍教育に関する履修案内『Guidance2026』をよく読んで、履修計画を立て、受講してください。

普遍教育とは、多くの大学で教養教育あるいは一般教育と呼ばれているカリキュラムに対応する、千葉大学独自の呼称です。皆さんは、それぞれ所属する学部での専門教育と並行して、普遍教育科目を履修することになります。学ぶ科目が限定されている高校とは異なり、大学では多くの種類の授業が開講されています。教養教育とは、雑学的な知識を得るためのものではありません。そこにはいろいろな目的があるでしょうが、大きな目的の一つは、自分という存在、自分が生きている社会、自分が学ぼうとしている学問を、より広い視点から位置づける、ということかと思えます。広い視点というのは、空間的な意味での広さ、つまり世界を知ることであり、また時間的な意味での広がり、すなわち過去を知ることでもあります。そこでは、自らの専門分野の位置づけや、価値を別の角度から捉えることにもつながります。

そして一方で、多様な価値観に触れ、他者を知る学びも重要です。社会生活は他者との関わりなしには成り立ちません。その際、現代社会の一員として必要となる、教養の基礎であるグローバルな視点、地域との関わり、哲学や倫理、歴史や文化、環境や生活、生命や心理については、それらの基礎科目を必修として受講することになります。ここを出発点として、自らの興味関心に従い、学びを深めていくこともできます。

大学での学びは、答えのない課題について考えることも求められます。積極的に意見を出し合う、能動的な学びも多々あります。文化や価値観の違いなどについて視野を広げ、様々な方と協力し合っているようなマインドを構築したり、課題に対して多角的に考え、その成り立ちを理解した上で、解決に向けた一歩を進めていくこともあるでしょう。

科学技術が進歩するにつれて、私たちの社会はますます便利になりつつあります。近年では、生成AIなどの新しい技術も急速に普及し、学びや情報収集の方法も大きく変化しています。こうした技術は、上手に活用すれば学習や研究を支える有用な道具となりますが、あくまでも自ら考え、理解することを支える補助的な存在であるべきです。技術がどれほど進歩しても、それを使う私たち自身の判断力や誠実さ、そして他者を思いやる心が伴わなければ、社会をより良くすることにはつながりません。その意味でも、偏ったものの見方ではなく、多様な視点から物事を理解し、自ら考える力を養うことが重要です。普遍教育で学ぶ哲学や倫理、歴史や文化、社会や科学に関する知識は、こうした新しい技術と向き合う際にも、皆さんの大切な基盤となるでしょう。

専門とは違うからと毛嫌いせず、様々な価値観に触れ、情報を共有し、人とのつながりや自然を大切にしていける社会の構築に貢献できる一員になっていただきたい思いがあります。そのため、科目を、千葉大学はたくさん用意しています。普遍教育は、生涯にわたり学び続ける基礎となる考えを養う場とも捉えられるでしょう。

皆さんにとって千葉大学での学びや生活が有意義なものとなることを、心より願っています。

千葉大学 全学教育センター長
三野 弘文